

## 指導例

### 1 学習障がいのAさん（小学6年生）

<実態>

- ・ 読み書きが苦手特にノートテイクに時間がかかる。

#### 個別の教育支援計画

合理的配慮の観点		提供する合理的配慮	
観点 教育内容 教育内容・方法	-1 教育内容	-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	問題内容の理解が容易になるよう教材を工夫したり、図式化したりして、本人に提示する。 授業中の教師の説明等の録音を許可する。 不安や焦燥感を抱かせないよう、毎時間、達成感が得られるような活動を取り入れる。
		-1-2 学習内容の変更・調整	必要に応じて板書する内容を印刷して渡す。 書くことに時間を要するため、試験時間を5分延長する。
	-2 教育方法	-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	板書を転記する時間が十分にとれない時は、タブレット型端末による撮影を認める。
		-2-2 学習機会や体験の確保	
		-2-3 心理面・健康面の配慮	学級担任、通級による指導担当者、特別支援教育コーディネーターなどへいつでも相談できるような体制を整える。 月に1回程度、学級担任と保護者、本人の面談の機会を設ける。
	観点 支援体制	-1 専門性のある指導体制の整備	タブレット型端末の有効活用や自分にとって必要な支援を周囲へ申し出ることができるようになるために週1時間の通級による指導を受ける。
-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮		タブレット型端末の使用の必要性について学級の児童に学級担任が年度初めに説明する。	
-3 災害時等の支援体制の整備			
観点 施設・設備	-1 校内環境のバリアフリー化		
	-2 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮		
	-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮		

算数科（変わり方を調べて）学習指導案の抜粋

	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	Aさんへの合理的配慮の提供	資料・類 問題文
つかむ	<p>1 問題把握</p> <p>ひなたさんが家を出てから14分たってお兄さんが追いかけます。ひなたさんの速さは分速60m、お兄さんの速さは分速200mです。お兄さんは何分後に追いつきますか。</p>	<p>前時の学習を振り返り、表に整理することで変化の決まりを見つけられることを確認する。</p> <p>問題文中の大事な事柄を全員で確認する。</p> <p>題意が把握できたかを確認する。</p>	<p>Aさんへの合理的配慮の提供</p> <p>題意の把握が容易になるよう一文ずつ段落わけした問題文を提示する。 ( -1-1)</p> <p>ひなたさんが家を出てから14分たったとき、お兄さんが、自転車であとを追いかけてきました。ひなたさんの速さは分速60m、お兄さんの速さは分速200mです。お兄さんは何分後にひなたさんに追いつきますか。</p>	問題文
見通す				
調べる	<p>3 自力解決</p> <p>自分で作成した表から変化のきまりを見つける。 2人の間の距離を求めて考える。</p> <p><math>60 \times 14 = 840</math> <math>200 - 60 = 140</math> <math>840 \div 140 = 6</math></p> <p>答え 6分</p>	<p>自力解決が困難な児童には解答に必要な項目のヒントを与える。</p> <p>自力解決ができた児童を確認し、説明の練習をさせる。</p>	<p>解決に必要な項目と数の書き込みのみでよい表<sup>1</sup>を印刷して渡す。 ( -1-1、 -1-2)</p>	表
まとめる	<p>5 本時のまとめ</p> <p>前時との相違点を確認し、留意点を考える。</p> <p>二人の速さの差を考えて、決まりを見つけるとよい。</p> <p>練習問題を解く 自己評価をする。</p>	<p>前時のまとめを参考にさせる。</p> <p>考えた内容を隣の児童と確認させる。</p>	<p>まとめの内容をタブレット型端末で撮影させる。 ( -2-1)</p>	

Aさんに渡した表


完成した表

お兄さんが走った時間	0	1	2	3	4	5	6
ひなたさんが進んだ道のり	840	900	960	1020	1080	1140	1200
お兄さんが進んだ道のり	0	200	400	600	800	1000	1200
2人の間のきょり	840	700	560	420	280	140	0

## 2 注意欠陥多動性障がい(Bさん)(中学2年生)

<p>&lt;実 態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に集中して取り組むことが苦手である。</li> <li>・ 文字を書くことに時間がかかる。</li> </ul>
--

### 個別の教育支援計画

合理的配慮の観点		提供する合理的配慮	
観 点 教 育 内 容 ・ 方 法	-1 教育 内容	-1-1 学习上又は生活上の困難を 改善・克服するための配慮	各教科において学習活動をパターン化する。 授業の流れを示したものを渡す。 役割を明確にして、グループ活動に参加させる 集中力が低くなっていると判断した場合は、発表のための指名や意図的に席から移動できるような役割を与える。
		-1-2 学習内容の変更・調整	書くことに時間を要するため、プリントは拡大したものを配付する。 家庭学習の課題は、下校時に全体の量を担任が把握し、生徒と話し合いながら量を調整する。
	-2 教育 方法	-2-1 情報・コミュニケーション 及び教材の配慮	板書を転記する時間が十分にとれない時は、タブレット型端末による撮影を認める。
		-2-2 学習機会や体験の確保	
		-2-3 心理面・健康面の配慮	本人・保護者と学級担任で月に1回程度の懇談をもち、必要に応じて教科担任、部顧問なども参加できるような体制づくりを行う。
	観 点 支 援 体 制	-1 専門性のある指導体制の整備	ソーシャルスキルトレーニングや自分にとって必要な支援を周囲へ申し出ることができるようになるために週1時間の通級による指導を受ける。
-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮		通級指導教室との連携により、本人が得意なこと、苦手なことを周囲の生徒に伝える。	
-3 災害時等の支援体制の整備			
観 点 施 設 ・ 設 備	-1 校内環境のバリアフリー化		
	-2 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮		
	-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮		

理科（力による現象）学習指導案の抜粋

	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	Bさんへの合理的配慮の提供	資料・備
導入	1 前時の振り返り	スライドで深さと水の力の関係を振り返る。 前時に学習した内容を動画で見せる。 本時の学習活動の流れを口頭で伝える。	本時の学習活動の流れのプリントを渡す。 ( -1-1)	PC テレビ
展開	2 学習課題を確認 物体を沈める深さを変えても浮力が変化しないのはなぜだろうか。	モニターに注目し、学習課題を音読させることによって、内容の理解を促す。		
	3 予想 ・ 考えた内容をワークシートに記入する。	まず個人で考えさせ、その後ペア、グループで意見交換する時間を確保する。	グループで意見交換する際、進行などの役割を明確にして話し合いに参加させる。 ( -1-2)	ワークシート
	4 実験	使用する器具の名称や用途を確認しながら実験を行うことを確認する。	道具の名称を読み上げる担当とする。 ( -1-2)	
	5 結果の考察 ・ 実験結果をワークシートに記入する。 ・ 結果を考察し、図や文章でまとめる。 ・ 班の考察を発表する。	気づいたことなど適宜メモに取らせる。 グループの他の生徒が気付いた内容について、ワークシートを交換して確認させる。-	拡大したワークシートを渡す。 ( -1-2) 他の生徒のワークシートをタブレット型端末により撮影させる。 ( -2-1)	
まとめる	6 まとめ 物体を沈める深さを変えても、物体の上面と下面に水が及ぼす力の差が一定なので、浮力は一定である。	板書を転記させた後、音読して確認させる。	タブレット型端末により撮影させる。 ( -2-1)	